へぇ〜そおけぇ〜

■曽於市文化財散歩（二）

「二重堀（ふたえぼり）」

大隅町北小校区は、霧島市福山町牧之原から連なる標高約三百㍍を超す台地で、昔島津藩の福山牧と末吉牧が隣接していたところです。福山牧は天正八（一五八〇）年、末吉牧は元和三（一六一七）年開設されました。

福山牧は、その範囲が牧之原から坂元の二重堀集落まで周囲五〇㌔㍍を超す広さで、千頭余の馬が放牧されていました。一方末吉牧は、その範囲が立馬集落から榎木段・折田集落を含む範囲で周囲一四㌔㍍程、三百余頭の馬が放牧されていました。折田方面は末吉郷に含まれていたから末吉牧と呼ばれたのです。

牧の内側を深く掘って、その土で外側に土手を築いて牧の囲いにしました。堀の深さと幅はいずれも一間（一・八㍍）位で、堀の底から土手の上辺までは約九尺（二・七㍍）におよぶ高さ、土手の上の幅は荷車が通れる程でした。工事には農民が動員されたのでしょうが、機械力のない時代の工事は大変だったと思われます。

両牧は、それぞれ堀が廻っていましたが、二重堀集落の所で堀が平行していたから、二重堀の名前が付きました。必要な個所には出入り口が設けられ、これを外戸（けど）といいました。外戸には、柴竹を編んで作られた開き戸があり、通行人の監視や馬の管理を行うための外戸番がいました。志布志市安楽にも牧に関する二重堀の地名があります。

毎年牧では、二歳駒を捕らえる馬追（うまおい）行事があり、福山牧で、馬を追い立てるための串目立（勢子）の役夫は近くの郷はもとより、百引・鹿屋・桜島・垂水・都城・串良・横川・溝辺など二十郷から集められ、しかも夫数一万千人にも及んだそうです。

追い立てられた馬は、狭い迫（谷）に追い込められ、ここで二歳駒を捕らえました。駒を捕らえるために作られた所を苙（おろ）といいます。末吉牧の苙の跡が、もう廃校となった大隅北中の東南の狭い道です。捕らえた子馬は立馬に集められ、ここから出荷されました。

牧の廃止は、文久三（一八六三）年で、それに伴い馬や土地の払い下げがありました。土地は好きなところに堀垣を巡らせば無償で払い下げられたそうですが、地租税をおそれて払い下げを希望しない人が多かったそうです。

曽於市文化財保護審議会委員
中島　勇三